

民生福祉常任委員会記録

(所管事務調査分)

平成28年6月13日

【開催日】 平成28年6月13日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午後2時52分

【出席委員】

委員長	下瀬俊夫	副委員長	矢田松夫
委員	石田清廉	委員	岩本信子
委員	小野泰	委員	三浦英統
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山信義	傍聴議員	岡山明
傍聴議員	山田伸幸		

【執行部出席者】

健康福祉部長	河合久雄	高齢福祉課長	吉岡忠司
高齢福祉課主幹	塚本晃子	高齢福祉課技監兼地域包括支援センター所長	尾山貴子
高齢福祉課主査兼介護保険係長	河上雄治	高齢福祉課高齢福祉係長	古谷雅俊
地域包括支援センター主任	荒川智美	地域包括支援センター主任	古谷直美
国保年金課長	桶谷一博	国保年金課主幹	安重賢治
国保年金課国保係長	石田由記子	国保年金課国保係主任	山根和之
病院事業管理者	河合伸也	病院局事務部長	堀川順生
病院局総務課長	岡原一恵	病院局総務課主幹	和氣康隆
病院局医事課長	山根和美	病院局総務課主査兼経理係長	藤本義忠

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	庶務調査係長	島津克則
------	-----	--------	------

【付議事項】

- 1 議案第57号 平成28年度山陽小野田市介護保険特別会計補正予算（第1回）について（高齢）
- 2 議案第56号 平成28年度山陽小野田市国民健康保険特別会計補正予算（第1回）について（国保）

- 3 所管事務調査 平成28年度国保料率について（国保）
- 4 所管事務調査 病院事業報告について（病院）
- 5 閉会中の継続調査事項について

午前10時 開会

- 1 議案第57号 平成28年度山陽小野田市介護保険特別会計補正予算（第1回）について
（記録については議案分に記載）
- 2 議案第56号 平成28年度山陽小野田市国民健康保険特別会計補正予算（第1回）について
（記録については議案分に記載）

3 所管事務調査 平成28年度国保料率について

【議事の概要】

- ・ 27年度の一人当たり医療費は県内13市中、高いほうから6番目
26年度は5番目、25年度は3番目
- ・ 課税限度額の見直し、軽減判定所得の算定の見直しにより、低所得者層、
中間所得者層の負担軽減
- ・ 医療分の所得割が0.2%減の9.7%、均等割が300円減の25,500円、
平等割が1,200円減の23,700円。後期支援分については前年度と変更なし。
介護分の所得割が0.1%減の3.4%、平等割が300円減の6,000円（詳細は別紙資料）

【主な質疑】

三浦英統委員 一人当たりの費用が上がっている原因は何か。

桶谷国保年金課長 詳しい分析は今後していく。県内の状況を見ても医療費は増加傾向である。市によって差があるのは年齢構成や医療環境の影響だと考えている。

三浦英統委員 国保料を下げた理由は何か。

桶谷国保年金課長 27年度の医療費総額に2.4%の伸び率を掛け、28年

度医療費総額を計算する。国、県の補助金も考え、基金も活用し、料率を算定している。

下瀬俊夫委員長 料率についての考え方としてはどうか。

桶谷国保年金課長 28年度の制度改正で国は中、低層階層への配慮を考慮しており、その考えも視野に入れ、条例との整合性も図り、料率を決めている。

三浦英統委員 医療分所得割9.7%は県内13市で何番目か。

桶谷国保年金課長 高いほうから下関市、宇部市に続いて3番目である。

三浦英統委員 料金的には高いほうに位置しているということか。

桶谷国保年金課長 そのとおりである。

下瀬俊夫委員長 200万、300万程度の所得の世帯を中心に引き下げたのか。

桶谷国保年金課長 所得の高い世帯を除き、全体的に引き下げている。

小野泰委員 増額となった世帯の件数は幾らか。

安重国保年金課主幹 限度額を超えている者で三、四百人程度であったと記憶している。

三浦英統委員 年金受給者と自営業の割合は幾らか。

桶谷国保年金課長 28年度の料率を算定する時点で公的年金所得の方が全体の約25%である。

下瀬俊夫委員長 料率改定後の応能割と応益割の比率は50対50か。

桶谷国保年金課長 そのようになっている。

午前11時8分 休憩

午後1時 再開

4 所管事務調査 病院事業報告について

【議事の概要】

- ・平成28年2月、3月、4月分の患者数、経営状況及び資金繰りの報告
- ・平成28年4月、5月、6月に開催された経営会議の概要の報告
(上記の詳細は別紙資料)

【主な質疑】

矢田松夫副委員長 病床稼働率が上がらない一番の理由は何か。

河合病院事業管理者 週末に患者が帰宅するのが原因である。

岩本信子委員 前年同月と比べると下がっているが原因は何か。

河合病院事業管理者 天候や気温の変動も影響する。

岩本信子委員 目標や病床稼働率を上げる策があるのか。

河合病院事業管理者 市民に無理に長く入院してもらうこともなく、市民病院らしくやっている。平日は入院患者が多い。週末に帰るので稼働率は下がっている。

岩本信子委員 質問がかみ合わない。経営会議で病床稼働率をどのように上げるのかという目標は立てないのか。努力はしないのか。

河合病院事業管理者 各科の目標は決まっている。それも引き上げている。かなりよくやっていると思っている。現在の病床稼働率はそんなに悪いとは思わない。

岩本信子委員 病床稼働率を上げるためのプランを聞いている。

河合病院事業管理者 病院で大事なものは安心安全な環境で療養してもらうこと。無理に収益を上げるということは市民から多く取るということになるのか。これ以上患者を入れると安心安全が保てないところまでいっていると思う。

三浦英統委員 一般の病院を訪問するという話はどうなっているか。

河合病院事業管理者 院長と病院戦略室長とで在宅支援という名目で医院を回り、同時に災害支援病院ということで各病院を回っている。そういう努力はしている。病床稼働率90%以上は無理ではないかという話をした記憶はある。皆よく頑張っている状態である。

岩本信子委員 3月末の累計の病床稼働率82.7%をどう捉えているか。

河合病院事業管理者 昨年比は伸びていると考えている。職員数も増やせない、看護師の数も十分ではないので、どこまで無理をさせるのかという問題もある。ここ四、五年は減価償却費が多いので、確かに厳しい状況である。

岩本信子委員 病床稼働率82.7%でよいのか、もう少し上げたいのか聞いている。

河合病院事業管理者 目標は85%であるが、個人としては職員もよく頑張っていると思っている。

下瀬俊夫委員長 経営会議の中で今のような大雑把な議論をしているとすれば、危機感を感じる。病床稼働率アップのために毎月の目標を設定しているのか。

河合病院事業管理者 毎月の目標設定はしていない。

下瀬俊夫委員長 経営会議は目標を設定して、その目標にこだわるのが目的と考えている。毎月の目標がなく、大体このぐらいあったらいいという程度で経営会議をしているのか。

河合病院事業管理者 経営会議は収支経営だけではなく、職員の健康、患者の

安心安全も含めて病院全体の経営の話をしている。収支だけ考えるのであれば民間の病院と同じではないか。

下瀬俊夫委員長 病院経営で実績が上がらなければ、一般会計からの繰入れという話が出てくる。市民の税金で賄うのか、病院の努力によって経営が成り立つのかという話になる。経営会議の概要に病床稼働率アップのための目標設定と書いてあるが、どのような内容か。

岡原病院局総務課長 年間の目標である。月によって達成、未達成はあるが、各診療科が目標に向かって努力を重ねている。

下瀬俊夫委員長 民間の場合は毎月の目標設定をし、どうやって達成するかというのが基本的な経営戦略だと考えている。市民病院は年間の目標に対して月々の実績がどうであろうが重きを置かないということか。

堀川病院局事務部長 経営会議は病床稼働率のことだけではなく、市民にとってあるべき市民病院はどのようなものかということで、いろいろな項目を協議、検討している。

下瀬俊夫委員長 経営会議は経営改善のために、日々の患者の動向を分析し、対策を立てるためにやっていると思っていたが、違うのか。

河合病院事業管理者 違うということはないが、在宅支援や災害時の対応、職員の労働環境など収支だけではなく経営全体のことを議論している。

下瀬俊夫委員長 収支の問題を軽視はできないということが経営会議の最初の基本的な方針ではなかったのか。入院患者を増やすために労災病院や大学病院を院長が訪問し、営業活動をするということであったが、その成果はどうか。

河合病院事業管理者 災害支援病院になるということで訪問しており、患者を回してくれというような訪問はしていない。開業医を含めた掛かり付け医からは在宅医療後方支援病院として積極的に受け入れるという話をしている。

石田清廉委員 目標が達成できないのは医師の数が足りないのか、看護師の数が足りないのか、患者の受入れ態勢に不備があるのか。

河合病院事業管理者 医師や看護師が増えれば、多少患者も増えるかもわからないが、職員も一生懸命やっているので、そのことは評価していただければありがたい。

矢田松夫副委員長 公立病院は赤字経営でも仕方がないということか。

河合病院事業管理者 そうは思っていない。基準内繰入は当然のことだが、基準外繰入は考えていない。市民に対してより良い医療を提供したいということである。

矢田松夫副委員長 経営の効率化や経営の努力をして収益のアップを図りたいという考えはあるのか。

河合病院事業管理者 ある。

矢田松夫副委員長 28年度の病床稼働率の目標が83.7%だが、あと一人二人で目標を達成できるのに、それがなぜできないのかと聞いている。

河合病院事業管理者 今後できるだけ頑張っていこうと思っている。病床稼働率の公式的な目標は85%だが、科の目標は八十六、七%ぐらいにしている。これ以上は無理ではないかというところまできているのが実態である。病床稼働率が悪いと言われるが、皆よく頑張っているのになぜそんなに悪いと言われるのか、自分自身は納得できないところである。

矢田松夫副委員長 一人二人を増やすために何ができるのか。

下瀬俊夫委員長 経営会議で毎月の目標を立てていないのだから、そういう話にならないのではないかと。

河合病院事業管理者 職員に無理をさせてでも、収益を上げろということになるのか。

下瀬俊夫委員長 経営会議の内容が民間とは違うと思う。病床稼働率の問題をスタッフで議論すれば、どうやったら増えるかという発想になるのではないかと。職員に無理をさせないという対応であれば、職員が経営努力をどうするかという発想にならないのではないかと。

岡原病院局総務課長 毎月、目標に向かってやっていくということなので、毎月の目標がないということではない。

下瀬俊夫委員長 経営会議の中で毎月の実績から見て足りない数字についてどうするかという議論になるのか。

堀川病院局事務部長 病床稼働率は大きな問題であると皆意識している。それを側面的に支えるということで、運営面で改善できれば病床稼働率が上がるであろうということを経営会議で協議している。

矢田松夫副委員長 4月は1日平均で目標まで4人足りないが、なぜ足りないのかの原因が経営会議で話が出ないのか。出るのは週末帰るからという話の繰り返しなのか。

河合病院事業管理者 病気が治れば退院ということになる。市民病院なので収益を上げるというよりも、市内の医療レベルを保つということを考えている。

岩本信子委員 昨年度の補正のようなことを繰り返してはいけないので、病床稼働率にこだわっている。現在の稼働率でも27年度補正のような一般会計からの繰入れが起こらないならかまわない。その点はどうか。

河合病院事業管理者 基準内繰入が行われるのであればマイナスは出ない。

下瀬俊夫委員長 一般会計からの繰入れも含めて親方日の丸体質なのではないかという思いがあり、委員会では病床稼働率、外来患者数にこだわって

いる。

河合病院事業管理者 異論がある。改革プランを出すということは、基準内繰入で総務省から補助金が出ているということである。それがきちんと回ってくるならば病院が赤字になって困るということはない。市も苦しいから、これまでは遠慮しながら、相談しながらもらっていた。例えば山陽市民病院は繰り入れられても新幹線に回っていたので赤字になった。基準内繰入がきちんと行われれば問題ないと思っている。

下瀬俊夫委員長 前年度、約2億9,000万円が別枠で繰り入れられた。これはあってはならないという話である。

三浦英統委員 3月末で不良債務が出るのか、赤字は幾らか。

和氣病院局総務課主幹 不良債務は出ない。基準外繰入があり利益が出ている。

三浦英統委員 今回の決算で基準外繰入があるのか。

和氣病院局総務課主幹 27年度3月補正で議決をもらい、繰入れを行っている。

岩本信子委員 有料ベッドの稼働率は幾らか。

山根病院局医事課長 平成27年度の有料個室利用率は86.29%である。

岩本信子委員 もう少し利用率を上げられないのか。

岡原病院局総務課長 患者の希望であり、強く勧めることはできない。

河合病院事業管理者 入院の際には必ず説明している。

小野泰委員 病診連携、後方支援病院の件で診療所はどの程度回ったか。

堀川病院局事務部長 今後進めていきたい。

小野泰委員 いつまでに終わるのか。

堀川病院局事務部長 いつとは言えないが、現在調整中で、近いうちに回る予定である。

小野泰委員 待ち時間対策のポケベルはどうなっているか。

河合病院事業管理者 試行実施し、アンケートを実施した。思ったほど評価は高くなかったが、近いうちに導入する方向である。

矢田松夫副委員長 3月末での職員の退職の状況はどうか。

藤本病院局総務課主査兼経理係長 医師6名(定年1名)、看護師4名(定年2名)、事務職2名(定年1名)である。

下瀬俊夫委員長 医師数は何名になるのか。

河合病院事業管理者 医師数は変わらない。ローテーションである。

吉永美子委員 待ち時間対策のポケベルの受信範囲はどこまでか。

堀川病院局事務部長 今回の試行では敷地内であればどこでも使える携帯を使用した。

吉永美子委員 いつから実施するのか決まっているのか。

堀川病院局事務部長 どこの科に入れるかという調整もあるが、今年度中に入

りたい。

下瀬俊夫委員長 一般質問の中で災害拠点病院については申請しないと聞いていたが方針が変わったのか。

堀川病院局事務部長 建物も新しくなり、積極的に防災等について力をいれるように方向転換したのだと思う。

下瀬俊夫委員長 東北大震災の後、病院を建て替えて災害拠点病院を受けるべきではないかという質問に対して、災害拠点病院の申請はしないという回答だった。今は基本的に災害拠点病院の指定を受ける方向なのか。

堀川病院局事務部長 今回ヘリポートも整備し、ハード面は整っており、検討しているところである。

下瀬俊夫委員長 トリアージはどこで行うのか。

堀川病院局事務部長 第1が駐車場、第2が1階ロビー、第3が3階大会議室である。2と3が逆かもしれない。津波の場合は浸水している可能性もあるが、労災病院と補完しあい、市民の命を守っていけたら良いと思っている。今後は労災病院とも話し合いながら前向きに進めていきたいと思っている。

吉永美子委員 理髪店はどうなっているか。

和氣病院局総務課主幹 結論は出ていない。

吉永美子委員 どういう議論になっているのか。状況を教えてもらいたい。

河合病院事業管理者 脳外科の手術をするために頭を坊主にしてもらうことが大きな役割だった。今は脳外科医が足りないが、脳外科をどうするかという話もある。

下瀬俊夫委員長 地域医療連携は二人体制でこれからも進めるのか。

和氣病院局総務課主幹 医療ソーシャルワーカーを臨時職員で採用した。現在は三人体制である。

下瀬俊夫委員長 有資格者は任期付きではないのか。臨時職員は物件費ではないのか。人件費で雇うべきではないか。

和氣病院局総務課主幹 病院の場合、任期付職員は雇用していない。また、臨時職員の賃金も人件費の中に入っている。雇用の形態については検討するが当面現状どおり行う。

下瀬俊夫委員長 地域連携室にソーシャルワーカーを配置することは常識となっている。安定した職場として対応できるようにしたほうが良いというのが希望である。

岩本信子委員 人間ドックは増えているか。

河合病院事業管理者 気持ち的には増やしたいが、入院患者や外来患者を優先しており、増やせない状況である。

岩本信子委員 設備はあるのではないか。

河合病院事業管理者 宿泊を伴う検診はやっていないということである。

岩本信子委員 人間ドック専用の医師を雇用する考えはないか。

河合病院事業管理者 検診室は充実しているが、宿泊を伴う内視鏡などさまざまな検査を行う体制にはなっていない。ドックに力を入れると病床稼働率も落ちてくるので、今は外来、入院患者に力を入れざるを得ない実情がある。

矢田松夫副委員長 新年度の院内保育利用者の現状はどうなっているか。

和氣病院局総務課主幹 6月現在、17名の利用がある。そのうち8名が市民病院職員の子どもである。

矢田松夫副委員長 夜間保育の利用状況はどうなっているか。

和氣病院局総務課主幹 相談を受けたことはあるが、実績はない。

下瀬俊夫委員長 市民病院がさんさんネットの基幹病院になることはできないのか。

河合病院事業管理者 追加で基幹病院になるためには2,000万円必要であり、将来性を考え検討中である。ただし、市内の福祉施設も参加するというのであれば活用していかなければならないと思っている。現在は情報収集をしているところである。

午後2時40分 休憩

午後2時50分 再開

5 閉会中の継続調査事項について

【議事の概要】

下記事項を9月定例会まで継続して調査することを委員全員賛成で決定した。

- ・国民健康保険及び国民年金に関すること。
- ・介護保険に関すること。
- ・在宅介護者支援に関すること。
- ・保健衛生に関すること。
- ・保育所に関すること。
- ・病院経営に関すること。
- ・地域医療に関すること。
- ・人権・男女共同参画に関すること。
- ・火葬場整備事業に関すること。
- ・空き家等の適正管理について

- ・子育て支援を中心に結婚や出産をしやすくなる環境整備に関すること。

午後 2 時 5 2 分 散会

平成 2 8 年 6 月 1 3 日

民生福祉常任委員会委員長 下 瀬 俊 夫